

[資料] 埼玉県北西部に残る 1923 年関東地震に関する記録

—震災によって生じた人々の混乱—

栄東高等学校* 篠田 海遥・荒井 賢一

Record of the 1923 Kanto Earthquake in the Northwest of Saitama Prefecture Confusion Among People Occurred by Earthquake Disaster

Miharu SHINODA and Ken'ichi ARAI

Sakae-Higashi High School, 2-77 Suna-cho, Minuma-ku, Saitama City, Saitama, 337-0054 Japan

The 1923 Kanto Earthquake caused heavy damage in the Kanto region centering around Tokyo. Furthermore, false rumors that Koreans poisoned wells caused confusion by many people. These false rumors were brought by refugees from Tokyo. The article about the rumors spread to Tokyo Nichinichi newspaper. Damage due to the earthquake motion was not recorded in Kumagaya City, Honjo City, Kamisato Town, Yorii Town, and Fukaya City, located in the northwestern part of Saitama Prefecture. On the other hand, the confusion caused by the false rumors led to the massacre. This is called Kanto Massacre. The cause of this case was brought on by rumors of poisoned wells from Koreans was thought of as fact. This study carried out that we searched stone monuments and Historical materials about the false rumors in the 1923 Kanto Earthquake. As a result, we have led the damage by the false rumors. For example, in Kumagaya City, the false rumors passed down and the garrison was organized in September 3, the Korean massacre happened in September 4.

Keywords: 1923 Kanto Earthquake, Northwest of Saitama Prefecture, Rumors, Korean, Kanto Massacre.

§ 1. はじめに

栄東高等学校理科学研究部では、2012 年より埼玉県内に残る 1923(大正十二)年 9 月 1 日に発生した関東地震(M7.9)の記録調査を今日まで継続している。これまでに、県庁所在地であるさいたま市[石黒・他(2014), 石黒・他(2015)], 埼玉県内の三大被災地(旧粕壁町, 旧幸手町, 旧川口町)を含む春日部市, 幸手市, 川口市[荒井・他(2017a), 荒井・他(2017b), 篠田・他(2018), 荒井・篠田(2019)], 所沢市[荒井・篠田(2021)]を, 対象地域としてきた。これらの地域の調査では、石碑や写真, 震災を経験した方々の文集, 日記等の記録を集約した。これらの記録には、本震や余震の揺れ方, 被害状況, 東京の大火災による避難民, 復旧復興等が記述されている。その内容を県内に住む人々と共有し, 今後発生しうる地震への備えに活かすことを目的として行ってきた。

先に述べた研究では、地震の揺れ自体が引き起こした被害に焦点を当てて調査を行ってきた。一方地震の揺れ以外の出来事によっても、被害や混乱が引き起こされている。埼玉県北西部地域(熊谷市・本庄

市・上里町・寄居町・深谷市)では、流言による混乱から朝鮮人虐殺事件に発展している。主な流言の内容としては、「不逞朝鮮人が各所に放火した」[松原(2013)], 「朝鮮人が井戸に毒を入れている」[関東大震災六十周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会(1987)(以下, 追悼事業実行委員会(1987)とする)], 「朝鮮人が東京で暴動を起こした」[北沢(1980)]が挙げられる。これらの流言による混乱を未然に防ぐことができれば減災に生かせると考え、本研究では、流言による人々の混乱から朝鮮人虐殺事件が発生した埼玉県北西部地域に焦点をあてて詳細な資料の調査を行った。なお、埼玉県内では、荒井・他(2017a), 荒井・他(2017b), 篠田・他(2018), 荒井・篠田(2019)のように埼玉県内の三大被災地でも流言が発生しているが、死者は発生していない。

§ 2. 関東地震の発生直後に生じた流言飛語

1923 年 9 月 1 日に関東地震が発生し、その後流言が生じたことにはいくつかの要因が挙げられる。松原(2013)によると、第一に、通常では信じられないような朝鮮人の暴動という情報が流言として伝わった最

* 〒337-0054 埼玉県さいたま市見沼区砂町 2-77
電子メール: miharush_2003@yahoo.co.jp

表 1. 各都市で発生した事件の時系列(「-」は記述無し)

Table1. Timeline of incidents in each city.

1923年	9月2日まで	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日
熊谷市 (旧熊谷町・久下村・佐谷田村)	-	流言が伝わる, 自警団が組織される	朝鮮人が護送され, 虐殺事件が発生する	-	-
熊谷市 (妻沼町)	-	-	-	夕方, 自警団が秋田生まれの日本人を朝鮮人と間違えて捕らえて殺害する	-
本庄市 (旧本庄町)	-	流言が伝わる	-	-	本庄警察署焼き討ち未遂事件が発生する
本庄市 (旧児玉町)	-	流言が伝わる	-	夕刻, 日本語が通じない労働者が神保原方面からやってきて, 朝鮮帰りの青年が労働者に話しかけた所, 朝鮮語が通じたため, 群衆が殺害する	-
上里町	-	-	朝鮮人を群馬に輸送する際に流言を信じ込んでしまった群衆によって虐殺事件が4日から5日にかけて発生する	-	-
寄居町	-	流言が伝わる	-	-	用土村の自警団が寄居町に乗り込んできて具学永氏を殺害する
深谷市	-	高崎線が深谷駅を出たところで流言によって警戒していた群衆が列車を止め, 車外を確認したところ, 朝鮮人を発見して殺害する	-	-	-

大の要因として, 1919(大正八)年3月1日に朝鮮独立運動が発生し, 震災発生時も日朝関係が最悪な状態にあったことが挙げられる. 第二の要因は, 日本列島に台風が接近していたことである. 武村(2003)によると, 震災前日の8月31日に九州に上陸し, 日本列島を縦断していた中で関東地震が発生したため, 人々の恐怖は最大限に達していたと述べられている. 第三の要因は, 日本のマスコミが事実関係を確認する前に報道したことである. 各新聞社は大地震でダメージを受けていたが, 東京では日日新聞社のみが被害を免れていた. この新聞社が号外として事実関係を確認せずに報じたことによって, さらに流言を拡大させた松原(2013)に述べられている.

埼玉県北足立郡役所が1925(大正十四)年に発行した『埼玉県北足立郡大正震災誌』(埼玉県北足立郡役所, 1925)によると, 9月2日に「不逞鮮人放火に関し庶發第八號を以て町村長に通牒し警戒背せしむ」とあり, すでに流言が発生していたことが分かる. しかしこの時点では, 朝鮮独立運動発生による当時の時代背景の影響もあり, 流言ではなく事実であるよ

うに捉えられていた. 9月5日にも, 「鮮人に關し町村長へ通牒し一面廳員一同に對し鮮人警戒に關する心得を郡長より訓示せらる」とある. しかし後述する§3で述べるように, 前日の9月4日には既に朝鮮人の虐殺事件が発生している. 9月5日の時点では虐殺されている朝鮮人が悪であるという様に捉えられていることから, 流言によって行政も混乱していることが伺える. ようやく9月6日になると, 「不逞鮮人が襲来するの噂は事實無根である流言に迷はざるゝ勿れ」という文書が流れ始め, 流言は収束に向かっていった. しかしながら, この間に広い範囲で大勢の朝鮮人が殺害された.

廣井(2001)には, 流言について5つの本質的特徴として流言とデマの社会学について取り扱っている. 廣井(2001)には「少なくとも数人の口を経る連鎖的コミュニケーション」・「秘密の色彩を帯びた口コミの情報」・「推測に基づく事実の確証は無いまま語られる情報」・「情報内容の歪曲」・「恐怖や不安といった伝える人々の感情」が述べられている. また, 流言が広く伝播されやすいのは, 自身の生活に関わる重要性



図 1-a. 本調査の対象地域の広域地図

Fig.1-a Wide area map including the surveyed areas in this study.



図 1-b 本調査の対象地域の新旧町村名を示す地図

Fig.1-b Map showing old towns or villages and present cities or towns surveyed in this study.

と情報が不足した状態の曖昧性という両方の条件が揃った場合であると紹介されている。大きな災害の発生直後にはこのような条件が揃い、流言の本質の特徴が顕著に現れやすい。廣井(2001)によれば、流言の発生は関東地震発生時だけではなく、1854(嘉永七)年の安政地震や 1891(明治二十四)年の濃尾地

震、1991(平成三)年の雲仙普賢岳の噴火といった大きな災害の度に、これまで繰り返されている。

中央防災会議(2008)によると、流言の性質として「第一に、流言は自覚されにくく、また、隠蔽されやすい。」とある。これは、上記にもある通り、流言が広まり始めてから5日もの間自覚されていなかったのは明らか

かであり、その性質が被害を大きくさせたと捉えることができる。また、中央防災会議(2008)によると「第二に、流言は押さえにくく、統制しにくい。」「第三に、流言はたどりにくく、捉えにくい。」とある。こちらに関しても後述する § 3 でその性質が被害を大きくさせていることを説明できる。



図2. 熊谷市街地(旧熊谷町内)の地図
Fig.2 Map of Kumagaya City area.

§ 3. 埼玉県内の各都市の人々の混乱

今回調査した都市の地図を図 1-a, 1-b にそれぞれ示す。松澤(1925)によると、本研究の対象である埼玉県北西部地域は、本震自体による被害記録が全く記述されていない又は全壊率が0~0.02%程度のごく僅かな被害しか出なかった地域である。しかし、流言により多くの人々の命が失われた。ここでは、流言による死者が発生した地域を対象に、記録を地域ごとに記述する。また、各地域で発生した事件の時系列を追悼事業実行委員会(1987)の記述に基づいて表 1 に記載する。

3.1 熊谷市(旧熊谷町・久下村・佐谷田村)

現在の熊谷駅周辺を図 2、熊谷市の広域地図を図 3 にそれぞれ示す。

追悼事業実行委員会(1987)によると、熊谷市には9月3日頃に、東京からの避難民だけでなく、郡役所を通じて県の通牒としても流言(§ 1 で記述した内容)が伝わった。役所から流言が流れているとは当時の住民も思っておらず、より流言が信じ込まれたようである。9月4日に、吹上(現鴻巣市)方面から朝鮮人が移送されてきた。中には学生や子供もおり、200名弱が移動していたと考えられる。事件は、朝鮮人が吹上町と久下村の境で逃げ出した所を、鳶口(1.5m~2m程の木棒の先に金具が取り付けられているもの)

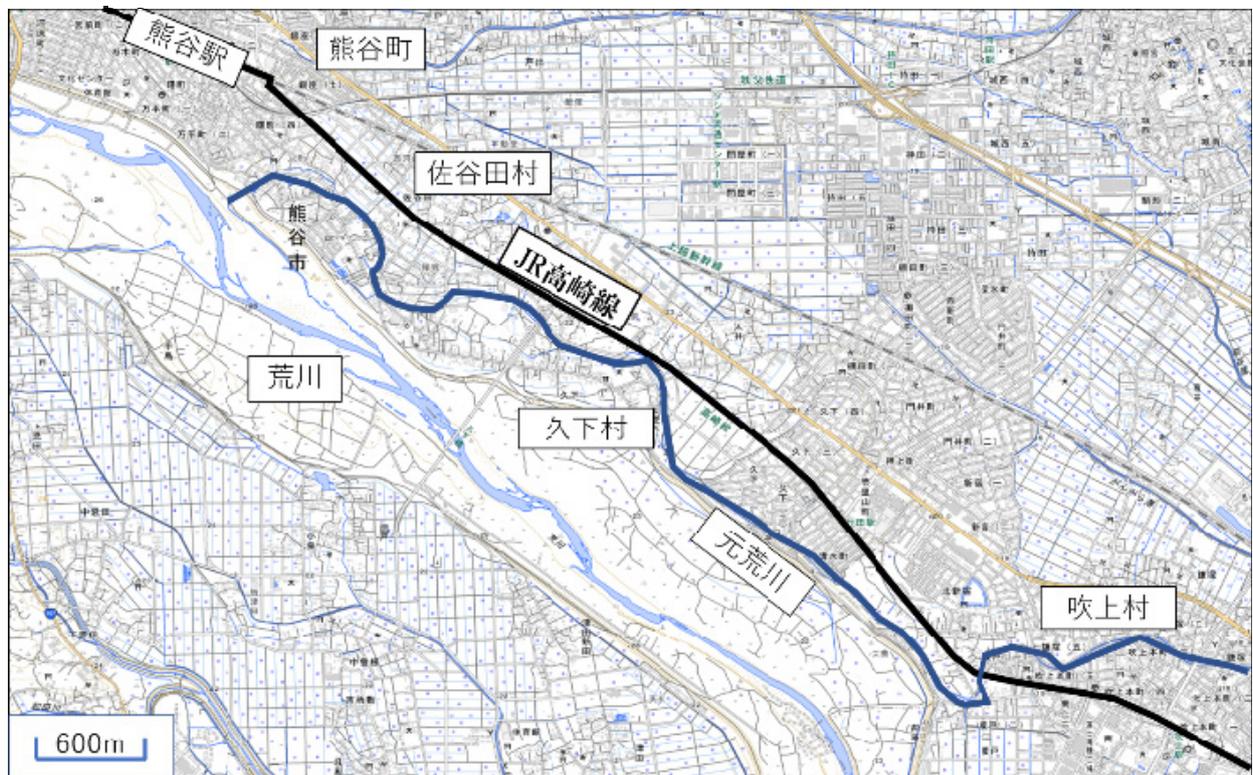


図3. 現在の熊谷市の旧町村の場所を示す地図
Fig.3 Map of old town and villages in present Kumagaya City.

で襲われたことから始まった。久下村を移動していた朝鮮人の過半数はトラック 4～5 台に乗せられて佐谷田村を通り、旧熊谷町に移送された。残りの朝鮮人も、徒歩で同様に移動した。その間にも、土手で休憩した際に一人の朝鮮人が元荒川に飛び込んだものの捕まり殺害され、移動中に逃げ出した数名も殺害された。徒歩で移動した人々は佐谷田村に到着した後 2 台に乗せられて熊谷方面へ移送されている。目撃者によると、ここでさらに残された 50～60 人前後の朝鮮人は、この時に綱でつながれたという。佐谷田村では一人が逃げ出したが、捕まり殺害されている。旧熊谷町まで朝鮮人が到着すると、群衆が武器を持って押し寄せ、朝鮮人に襲い掛かった。ここでは 20～30 人程が殺害された。残った朝鮮人は、熊谷町の中心部に到着後、数名が殺害され、その後警察署付近でも 16 名が殺害され、最終的に残った朝鮮人も熊谷寺(ゆうこくじ)で皆殺害された。旧熊谷町で殺害された遺体は熊谷寺大原墓地に埋葬された。

熊谷市での犠牲者数は文献によって異なり、熊谷市立図書館美術・郷土係(1994)では 42 人、埼玉と朝鮮編集委員会(1992)によると 60 人、また松原(2013)によると、久下村で 7～8 人、佐谷田村で 1 人、旧熊谷町で 70～80 人とされている。

現在熊谷寺大原墓地には供養塔(図 4)が建てら



図 4. 熊谷寺大原墓地に建つ供養塔
Fig.4 Front sides of the stone monument built in the Ohara grave of the Yukokuji temple.

れており、毎年 9 月 1 日には追悼式が行われている(2020(令和二)年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)。

【熊谷寺大原墓地の供養塔の碑文(「/」は改行)】

(表面)

供養塔／陸軍中将 江橋英次郎書

(裏面)

噫大正十二年九月一日午前十一時五十八分突如帝都ヲ中心トシテ勃發シタル大慘禍関東大震災ハノ瞬時ニシテ幾万ノ生靈ト幾百億ノ財貨トヲ奪ヒ去リシ振古未曾有ノ大惨害ナリキ當時我國ハ歐州ノ大戦ノ影響ヲ受ケ國內景気ハ非常ナル好調時代ニ在リ一般的ニ放縱ト贅澤ノ弊ヲ露呈シ吾世ノ春ノヲ謳歌シツアリシ時ナリシカハ恐怖モ一入大ニ狼狽又甚シカリシナリ一時全ク交通機関ハ素ヨリ通信機関ノ杜絶流言蜚語ノ百出其真相ヲ知ルニ由ナク或ハ此儘暗黒世界ヲ現出スルニアラサルノナキヤヲ思ハシムルノ状態ナリキ此事實ヨリ災後ノ國民ハ俄然強キ反省ニ目覚メ此惨害ハ天ノ下ノシ給ヘル戒ナリ天譴ナリシテ異常ナル緊張ニ立戻リ専ラ復興ノ気魂ニ燃ヘ懸命ノ努力ヲ奮ヒ極ノメテ迅速ニ其實ヲ舉クルヲ得タリシモ此災禍ノ為ニ犠牲トナリシ多クノ生靈ニ對シテハ誠ニ痛恨ノ哀惜ノ情ニ禁ヘサル所ナリ本市ニ於テ遭難セル生靈ハ熊谷寺及圓光寺ノ両墓地ニ埋葬シ季節ノ放養ヲ怠ラサリシモ将来其荒廢センコトヲ虞レ且ツ分葬シアルコトノ不便ヲ除カンカ爲メ今回ノ市内ノ有志胥謀リ両墓地ノ遺骨ヲ一ニシ茲ニ熊谷寺墓地内ニ地ヲ相シテ本供養塔ヲ建立シ以テ生靈ノ冥ノ福ヲ祈ラントス 犠牲ノ靈不慮ノ遭難慰ムルニ由ナシト雖モ此尊キ犠牲カ同胞國民ノ自覺反省ヲ促シ緊張堅實ナル風氣作興ニ寄興セル濟世ノ供徳ハ蓋シ大ナルモノアリト謂フヘク豈誰カ徒死ナリトセンヤ聊當時ノ概況ヲ録シテ誌トスノ昭和十三年七月 埼玉縣熊谷市長 勲六寺 新井良作書ノ坂群熊 水友勝 刻

【碑文の要約】

大正十二年九月一日の午前十一時五十八分に突如東京を中心に襲った関東大震災は、数万の命が失われ、数百億円の被害が発生し、未曾有の大災害となった。当時は第一次世界大戦の影響で好景気であったが、震災により一時交通機関が完全停止し、多くの流言飛語が流れ、混乱した。震災後、国民は大いに反省し、震災は天罰であると考え、復興に全力を尽くした。当市において亡くなった人々は熊谷寺及び圓光寺の両院に埋葬されたが、将来荒廢することを恐れ、両墓地の遺骨を熊谷寺墓地内に一つに集め、本供養塔を建立した。

3.2 熊谷市(妻沼町)

追悼事業実行委員会(1987)によると、当時足尾銅山で働いていた秋田生まれの青年が、震災を契機に東京で他の仕事に勤めようと上京していた。しかし9月5日夕方に埼玉県に入ろうと利根川を渡ったところで妻沼町の自警団に捕まった。この青年は、秋田出身で東北訛りであったため、これを自警団は朝鮮人と間違えて殺害した。

埼玉と朝鮮編集委員会(1992)にも同様の記述があり、利根川の橋を渡って妻沼町に入ったところで自警団に東北訛りの発音を朝鮮人と間違えられて、虐殺事件が発生したと記述されている。

このように日本人が朝鮮人と間違えて殺害される事件は追悼事業実行委員会(1987)によると、「日本人が巻き込まれた事件も県内各地に多数あったと思われる。しかし事件として明るみに出され、公判までおこなわれているのは妻沼しかない」との記述がある。

3.3 本庄市(旧本庄町)

本庄駅周辺の地図を図5に示す。

3.3の本庄市及び3.5の上里町では、追悼事業実行委員会(1987)に述べられている複数の町村で発生した事件の記述が大変複雑であったため、著者が本文を精査し、次のようにまとめた。

本庄市(旧本庄町)では、本震が発生した9月1日から、東京からやってくる避難民の為に炊き出し等の救護活動を行っていた。9月3日頃より避難民が「朝

鮮人の放火、井戸への投毒」といった流言を伝え、住民は混乱し始めた。そこへ児玉郡役所の課長より埼玉県からの通牒として、「朝鮮人が東京で悪いことをした。見たら捕まえて警察に突き出せ」という趣旨の情報が伝わった。これにより、それまでの避難民への救護活動から朝鮮人への警戒へと一変した。その後町内では自警団が組織され、検問所が設置された。

3日の夕刻には、既に本庄町に住んでいた朝鮮人及び避難してきた朝鮮人合わせて、20名前後が警察署に收容されていた。4日の夕刻になると、県南方面より徒歩で避難し、籠原(現在の熊谷市と深谷市の中間付近)から数台のトラックに乗った数十人の朝鮮人が輸送されてきた。このトラックは一度神保原方面へと移動するが、群馬県側が朝鮮人の受け入れを拒否したため、本庄警察署へ帰ってきた(神保原の被害については3.5に記述)。9月4日夜8時から9時にかけて、1台のトラックが本庄署へとたどり着いた。それを知った住民は、本庄署付近へ集まりだし、騒動を起こした。その際にトラックに乗っていた朝鮮人を殺害し、4日夜から5日朝までの一晩で40人以上が殺害された。一晩中の騒ぎであったものの、深谷方面から運ばれてきた朝鮮人に関しては、警察官2人によって引き返され助けられている。6日には殺害には至らなかったものの、流言で混乱する群衆がさらに事件を起こしている。本庄署の署長が本庄署に戻ってきたところ、群衆は署長に対する不満が爆発し、石油を本庄署に持ち込むなど、本庄署焼き討ち未遂事件が発生している。



図5. 本庄駅周辺の地図

Fig.5 Map around Honjyo Station.



図 6. 太駄収蔵庫に保管されている慰霊碑『鮮人之碑』

Fig.6 Monument have been stored in the Ooda Storage.



図 7. 長峰墓地に建つ慰霊碑

Fig.7 Monument built in the Nagamine Graveyard.

本庄では、最終的に亡くなった人々を長峰共同墓地に埋葬した。さらに、震災翌年の 1924(大正十三年)には「鮮人之碑」と書かれた慰霊碑(図 6)が建てられたものの、戦後に「鮮人」という言葉が差別的表現として捉えられたため、1959(昭和三十四)年に慰霊碑が立て替えられている(図 7)。「鮮人之碑」は現在本庄市教育委員会によって太駄収蔵庫に保存されている。以来毎年9月1日には、本庄市の主催で慰霊祭が行われている(2020 年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)。

【鮮人之碑の碑文(「/」は改行)】

(表面)

鮮人之碑

(裏面)

大正十三年九月卯日／本庄新聞記者団／泰平会社
演芸部／建石

【本庄市長峰墓地の碑文(「/」は改行)】

(表面)

関東震災朝鮮人犠牲者／慰霊碑／日朝協会会長
山本熊一書

(裏面)

一九二三年関東震災に際し朝鮮人が動乱を起そうとした／との流言により東京方面から送られてきた八十六名の朝／鮮人がこの地において悲惨な最期を遂げた これを哀悼／して泰平会社演芸部と本庄新聞記者団が翌年九月鮮人之／碑をここに建立したがこのたび本庄市の援助の下に日／朝両国人有志によって新たに慰霊碑を建立することにな／つた朝鮮が独立し朝鮮民主々義人民共和国が偉大な建設／を進めつゝあるこの時期に慰霊碑を建立することは痛／恨の中にも我々の喜びをする所である 我々は暗い過／去への厳粛な反省と明るい未来への希望をこめてこの碑／を建立し日朝友好と世界平和のために献身することを地／下に眠る犠牲者に誓うものである／一九五九年秋 原水爆禁止日本協議会理事
長 安井郁 選文

3.4 本庄市(旧児玉町)

本庄市の西部地域に位置する児玉駅周辺の地図を図 8 に示す。

追悼事業実行委員会(1987)によると、児玉の事件は当時新聞報道もされず、完全に不問になった事件である。児玉地方では9月3日頃流言が伝わり、同時に役場より警戒を訴える回覧がまわされた。町内では井戸の警戒に当たり、警察署の前に検問所を設け、怪しい者の取り調べを行っていた。5 日夕刻に、神保



図 8. 児玉駅周辺の地図

Fig.8 Map around Kodama Station.

原方面から怪しい労働者がやってきた。群衆が集まり、その人物に日本語で尋問したものの応答がないため、朝鮮帰りの人が朝鮮語で話しかけたところ、何かを答えた。話しかけた人物が「これは朝鮮人だ」と叫んだ所、群衆の1人がいきなり朝鮮人を木刀で殴りつけた。これをきっかけとして集団で暴行を行い、最終的に惨殺した。この事件は警察署の前で起こったものであるが、警察官は手を出すことができなかったという。その後、殺害された朝鮮人は浄眼寺に埋葬された(図9)。

【浄眼寺の墓の碑文(「/」は改行)】

(表面)

鮮覺悟道信士

(裏面)

昭和七年九月三十日/児玉警察署員一同建之

3.5 上里町(旧神保原村・旧賀美村)

図 10 に神保原駅周辺の地図を示す。

追悼事業実行委員会(1987)の記述を精査していくと、上里町(旧神保原村・旧賀美村(以下、神保原村・賀美村と記述))では、9月4日・5日に朝鮮人虐殺事件が発生したことがわかる。

4日は本庄署で拘束された朝鮮人を、群馬県に数

回にわたってトラックで移送する予定であった。午後1時に1台目のトラックが、朝鮮人15人と警官3人を乗せて本庄署を出発した。午後2時には神保原村・賀美村を過ぎて群馬県へ向かおうと神流川の橋に差し掛かった所で、流言を信じ込んだ群馬県側の自警団により、群馬県側の町村を通過することを拒否された。トラックに同乗していた警官も電話で藤岡署に朝鮮人の引継ぎを交渉したが拒否されたので、河原に朝鮮人を下ろしトラックだけ本庄へ引き返した。残された朝鮮人は賀美村の一部の群衆によって暴行を受けたが、賀美村の消防団長によって説得され、最終的に朝鮮人は賀美村役場に收容されることとなった。

2回目は4日の夜に朝鮮人数十人を乗せた3台のトラックが、神保原村を通り賀美村まで向かっている。賀美村では群衆がトラックを囲い込み、朝鮮人に暴行を加えた。その後最後の1台は1回目に輸送されて賀美村役場に收容されていた朝鮮人を乗せ、それ以外のトラックも神保原村を経由して本庄方面に引き返した。しかし、神保原村を通過する際に、警戒中の自警団等がトラックの通過を妨害した。先頭の1台は突破して本庄へ向かったものの、残りの2台は捕まってしまうトラック及び朝鮮人はかなり傷つけられた。この際本庄署の署長や地元の区長が静止にかかっているが、群衆を止められずにいた。翌朝までに捕まっ

たほとんどの朝鮮人は殺害された。本庄町に戻った朝鮮人については3.3で記述している。

1952(昭和二十七年)年、この事件がこの地方に住む朝鮮人によって問題提起されたこと及び一部の日本人の働き掛けもあり、安盛寺の境内に慰霊碑(図11)が建立され、現在まで毎年9月1日に慰霊祭が行われ

ている(2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)。

【安盛寺の慰霊碑の碑文(「/」は改行)】

(表面)

関東震災朝鮮人犠牲者／慰霊碑

(裏面上段)

大正十二年関東大震災に際し朝鮮人が動乱を／起したとの流言により東京方面から送られて／来た数十名の人々がこの地において悲惨な最／後を遂げた。爾来二十有九年そのままに放置さ／れていたのであるがこのたび理解ある日朝両／国人有志によつて慰霊碑を建設することとな／った我々は痛恨の中にもこの碑の建立によつて過去の誤ちを再びくりかえすことなく今后／互にアジアの同胞として相親しみ深き反省と／自重をもつて相たずさえて永遠に平和な東／洋の建設に邁進したいこの碑がその道標とも／なり金字塔ともならんことを祈つてやまない／次第である 文學博士 柳田謙十郎選文／玉翠木村貞次書

(裏面下段)

賛助／埼玉縣／埼玉縣議會／兒玉郡町村長／同議長／同農業協同組合長／日朝有志／一九五二年四月廿日建立／發起／神保原村／賀美村／埼玉縣朝鮮人



図9. 浄眼寺に建つ犠牲者の墓

Fig.9 Tomb where the victim was buried, built in the Joganji Temple.



図11. 安盛寺に建てられている慰霊碑

Fig.11 Monument built in the Anseiji Temple.



図10. 神保原駅周辺の地図と、旧村の場所

Fig.10 Map around Jinbohara Station and locations of old villages.

3.6 寄居町(旧寄居町・旧用土村・旧花園村・旧桜沢村)

図 12 に寄居駅周辺の地図を示す。

北沢(1980)によると、震災が発生した頃の寄居町には、朝鮮人参飴を売っている具学永(グ=ハギョン)という名の朝鮮人が住んでいた。当時の寄居町の住民で彼を知らない者はおらず、彼が善良な市民であることを皆が知っていた。ところが、寄居町にも朝鮮人が暴動を起こし、こちらに攻め込んでくるというような情報が伝わってきた(追悼事業実行委員会(1987)によると、その情報が伝わったのは9月3日であった)。消防団は自警団となり、臨時に警備班を作り、交代で不審番をすることになった。具学永氏はその情報を耳にすると9月5日の午後に自ら寄居署に保護を求め、保護されていた。しかし9月6日の夜に、隣接する旧用土村(現寄居町)の自警団約200人が押し寄せ、具学永氏を殺害するよう指示してきた。寄居署の署長がなだめたものの、自警団の興奮は収まらず、陸軍中尉も駆けつけてなだめたがやはり興奮は収まらず、警官も皆逃げ出した。その後、丸腰になった具学永氏が署から引きずり出され、竹槍や日本刀によって殺害された。具学永氏は亡くなる直前に地面に自らの血で「罰、日本、罪無」と書いていった。事件後、正樹院に墓が建てられた(図 13)。

追悼事業実行委員会(1987)によると、当時寄居署の警官の多くが浦和や本庄へ救援のために出ていたため、寄居署には警官が4人しかいない状況であった。そのため、自警団を抑えることがさらに厳しい状況であったと記述されている。

【正樹院に建つ具学永氏の墓(「/」は改行)】

(表面)

感天愁雨信士

(右側面)

大正十二年九月六日亡/朝鮮慶南口

(左側面)

施主 宮澤菊次郎/外有志者

3.7 深谷市

深谷駅周辺の地図を図 14 に示す。

追悼事業実行委員会(1987)によると、9月3日夜、高崎線の下り列車が深谷駅を発車した際に、乗車していた朝鮮人の避難民が発音から朝鮮人であることを車内の客に知られた。発車して間もなく列車のスピードも出ていなかったため、朝鮮人は外へ逃げ出し、列車の外側につかまっていた。また、流言により警戒心を高めていた深谷の群衆が、踏切で一本一本列車を止めて調べていた。車内は混雑していたため捜索できず、車外を調べていたところ、外につかまって



図 12. 寄居駅周辺の地図

Fig.12 Map around Yorii Station.



図 13. 正樹院に建てられている具学永氏の墓
Fig.13 The tomb where Mr. Gu Hageyeong was buried, built in the Shoujuin Temple.



図 14. 深谷駅周辺の地図と殺害事件現場の踏切の推定位置
Fig.14 Map around Fukaya Station estimated location of the railway crossing occurrence of the Kanto Massacre.

いた朝鮮人を発見し殺害した。この朝鮮人は大宮の製糸工場で働いており、信州の岡谷に避難している最中であった。この事件は虐殺を隠すために列車に轢かれて亡くなったことにされていた。そのため、近年までこのような事件があったことは明らかにされていなかった。

§ 4. おわりに

1923 年関東地震の際に発生した流言は、§ 1 でも述べたように「不逞朝鮮人が各所に放火した」・「朝鮮人が井戸に毒を入れている」・「朝鮮人が東京で暴動を起こした」というものであった。§ 3 で挙げた 5 つの都市(熊谷市・本庄市・上里町・寄居町・深谷市)での事件は、いずれも流言によって生じた人々の混乱によって引き起こされたことは言うまでもない。流言は、東京からの避難民だけでなく、新聞による号外や県の通牒によっても伝えられたため、中央防災会議(2008)による「流言は自覚されにくい」という性質のしており、流言であるということが自覚されなかった。また、一度信じ込まれた流言は抑え込むことが難しく、熊谷や寄居でも、警察等が虐殺事件を止めようとしたものの、止めることができなかった。更に流言は東京方面から流れてきたといわれているが、具体的にどこから発生したかまでは分からない。このように、関東地震で発生した流言もその性質を捉えていた。

流言は、災害以外でも人々が混乱している状況で起こりうる。近年でも中村(2017)によると、2016 年に発生した平成 28 年熊本地震発生時に流言が発生、総務省(2020)によると、2020 年より流行した新型コロナウイルス感染症による混乱から流言が発生している。さらに、関東地震の際と違い、現在は SNS が発達しており、一度流れた流言は瞬時に世界中へ拡散される。流言の扱いは、関東地震で生じたもの以上に慎重になる必要があるだろう。関東地震では虐殺事件にまで発展してしまったが、これらの流言の怖さ、事件の重大さは世間に広める必要があるだろう。そうすることによって、将来災害が発生した際の流言による被害を徐々に減らして、最終的には無くしていきたいと考えている。

謝辞

本研究は、公益財団法人武田科学振興財団より「高等学校理科教育振興助成」に採択され、助成金を調査の旅費や文献の購入、文献の複写に充当させて頂いた。本庄市児玉町に建つ太駄収蔵庫において保管されている石碑「鮮人ノ碑」は、本庄市文化財保護課にお願いをして現地で実物の調査をさせて頂いた。この際には同課の細野房保氏にご対応頂いた。本稿の地図は全て国土地理院地図を使用させて頂いた。東京大学地震研究所の加納靖之氏には、2021 年 6 月にオンライン開催された日本地球惑星科学連合 2021 年大会の高校生セッションにおいて本研究の一部をポスター発表した際に事前のアドバイスを頂くと共に、本稿を確認頂きご指導を頂いた。担

当編集員の行谷佑一氏及び匿名の査読者より頂いたコメントは本稿の内容を改訂する上で大変有意義であった。また、本校教頭の見澤伸幸氏、本校理科教諭の鈴木光輝氏、本校理科研究部卒業生の島村泉里氏及び部員の宮崎和至氏、鈴木隆仁氏、片桐蓮氏、宇野澤すみれ氏、堀井陽澄氏、徳田光希氏には原稿の確認にご協力頂いた。アブストラクトの英文の確認には、本校英語教諭の山本智史氏、Lee Rogers氏にご協力頂いた。記してお礼申し上げます。

対象地震：1923年関東地震

文 献

- 荒井賢一・小林優介・竹原 輝・高木 駿・山浦照良・安倍聡志・北廣創史, 2017a, 埼玉県春日部市に残る 1923 年関東地震に関する石碑, 歴史地震, 第 32 号, 77-86.
- 荒井賢一・小林優介・竹原 輝・高木 駿・山浦照良・安倍聡志・北廣創史, 2017b, 埼玉県春日部市郷土資料館に残る 1923 年関東地震に関する記録～大震災記念児童文集と大正 12 年粕壁震災写真帳～, 歴史地震, 第 32 号, 103-106.
- 荒井賢一・篠田海遥, 2019, 埼玉県川口市に残る 1923 年関東地震に関する記録, 歴史地震, 第 34 号, 185-196.
- 荒井賢一・篠田海遥, 2021, 埼玉県所沢市に残る 1923 年関東地震及び 1924 年丹沢地震に関する記録, 歴史地震, 第 36 号, 33-42.
- 中央防災会議, 2008, 1923 関東大震災報告書【第 2 編】 第 4 章 混乱による被害の拡大 第 1 節 流言蜚語と都市, http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1923_kanto_daishinsai_2/index.html (最終閲覧 2022 年 3 月)
- 廣井脩, 2001, 流言とデマの社会学, 文芸春秋, 225pp.
- 石黒喬大・荒井賢一・西山享佑・安部聡志・平原優美・増田滉己・浜橋一徳・齋藤隆・木村円香, 2014, 埼玉県さいたま市に残る 1923 年関東地震に関する石碑, 歴史地震, 第 29 号, 111-128.
- 石黒喬大・荒井賢一・小林優介・西山享佑, 2015, 埼玉県さいたま市に残る 1923 年関東地震に関する石碑 その 2, 歴史地震, 第 30 号, 139-148.
- 関東大震災六十周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会, 1987, かくされていた歴史 関東大震災と埼玉の朝鮮人虐殺事件 増補保存版, 関東大震災六十周年朝鮮人犠牲者調査追悼事業実行委員会, 464pp.
- 北沢文武, 1980, 大正の朝鮮人虐殺事件, 鳩の森書房, 203pp.
- 熊谷市立図書館美術・郷土係, 1994, 関東大震災と朝鮮人殉難事件について(市内の文化財をめぐる), 熊谷市立図書館, 127pp.
- 松原日治, 2013, 埼玉の朝鮮文化, 櫻井印刷, 203pp.
- 松澤武雄, 1925, 木造建築物ニヨル震害分布調査報告, <https://repository.dl.itc.utokyo.ac.jp/record/15669/files/KJ00004861739.pdf> (最終閲覧 2022 年 3 月)
- 中村功, 2017, 熊本地震にみる災害通信の進展と課題, https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasdis/15/2/15_113/_pdf(最終閲覧 2022 年 3 月)
- 埼玉県北足立郡役所, 1925, 埼玉県北足立郡大正震災誌, 昭文堂, 467pp.
- 埼玉と朝鮮編集委員会, 1992, 暮らしの中から考える 埼玉と朝鮮, 埼玉と朝鮮編集委員会, 115pp.
- 篠田海遥・野間鉄心・荒井賢一, 2018, 『幸手町のかたりべ』に記された埼玉県幸手市における 1923 年関東地震, 歴史地震, 第 34 号, 220-236.
- 総務省, 2020, 新型コロナウイルス感染症に関する情報流通調査, https://www.soumu.go.jp/main_content/000693295.pdf(最終閲覧 2022 年 3 月)
- 武村雅之, 2003, 関東大震災—大東京圏の揺れを知る, 鹿島出版会, 139pp.